

北海道教育大学教職大学院 教職大学院 オンライン履修プログラム



教職大学院 オンライン履修プログラム概要



オンライン履修プログラムの導入

これまで

- 広域な北海道においては、教職大学院に通学可能な地域が限定される。
- 北海道教育委員会派遣制度により通学するためには異動・転居を伴うが、新たな勤務校での実習では、学校課題と研究テーマが連動せず、院生のニーズと合致した実習が難しい。
- 現職教員の入学には管理職の理解を得ることが困難な場合が多い。
- キャンパスから特に遠い地域（日高、オホーツク、宗谷、根室等）の教員は学ぶ機会が特に少なく、オンラインによる学習機会の確保を望む声がある。

予測困難な変化

対応すべき課題

- 広域な北海道での現職教員の研修機会の確保
- 「令和の日本型学校教育」に対応した学び続ける教員の支援
- 「教員の働き方改革」へ対応した転居を伴わない修学環境の整備

第4期中期計画4-2

広大な北海道における学校教員への研修機能を強化し、学び続ける教員を支援するため、教育委員会と連携・協働し、遠隔授業によって修了要件を満たすことが可能なオンライン履修プログラムを開発・提供する。（後略）

概要

- 既存のコース「学校組織マネジメントコース」「教職キャリア形成・研修デザインコース」の履修プログラムの一つとして実施（カリキュラムは現行のまま）
- 文部科学省「メディア授業告示」を遵守し、教育方法の特例としての位置付けとする。
- 修学校（所属キャンパス）は、現在の勤務校最寄りのキャンパスとする。
- 修学年数は2年間（短期履修不可）
- スクーリングを必須とする。
- 修学や実習は勤務校で実施する。
- 入学前の勤務校訪問やオンライン定期相談会による院生支援を行う。
- 令和6年度から北海道教育委員会からの大学院研修派遣を対象に開始し、令和7年度以降、北海道内の現職教員に拡大する。

カリキュラムの工夫

- オンライン履修プログラムの院生同士によるオンラインセミナー（必須）
- 2年次の実習における大学教員の実習校訪問（1年次の教育実践研究実習Ⅰは免除可）
- 入学前打合せ
市町村教育委員会、学校管理職に対する制度説明や支援要請
入学予定者に対する個別指導・助言の実施
- 実習の事前指導、中間指導、事後指導をオンラインで実施
- 実習計画及び実習報告を勤務校の管理職・院生と共有

スクーリング

- 対面を原則とし、他の院生や教員と相互に関わり合いながら学ぶ機会を確保
- 1年次：入学ガイダンス、中間発表会、修了発表会、夏期集中講義「北海道の教育課題解決へのアプローチ」
異なる研究分野の院生間で学びあう対面合同セミナー
 - 2年次：中間発表会、修了発表会、遠隔修学院生交流（学校課題の交流等）
実践論文指導
- ※上記のほか、指導教員と院生との相談で個別に実施

期待される効果

広域な北海道全域において転居を伴わずに教職大学院への通学が可能
→ 現職教員の研修機会の増加
学び続ける教員の支援
単位互換制度等による全国展開の可能性

スケジュール

令和5年1月～ 文部科学省説明（了承）、
会議報告、教育委員会との調整
令和5年度 プログラム詳細決定、令和6年度学生募集
令和6年度 オンライン履修プログラム受講生（派遣）受入
令和7年度～ オンライン履修プログラム受講生（一般）受入

北海道における唯一の教職大学院

道内4キャンパス（札幌、旭川、釧路、函館）をつなぐ双方向遠隔授業の実施



個別指導や院生の交流には従前からオンライン活用

キャンパス間300km強（東京-名古屋間に相当）